

デジタル教科書からみた 学習eポータル

一般社団法人教科書協会

1. デジタル教科書から見た学習eポータル の在り方
2. 学習eポータル とつながることのメリット、課題や懸念

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

【背景】

日本の教育においては、これまでもデジタル教材等が利用されてきたが、「**GIGAスクール構想**」(2019年)以降、義務教育段階で学習者1人1台端末環境が急速に整備され、「**学習者用デジタル教科書普及促進事業**」(2021～2023年)および「**学習者用デジタル教科書の導入**」(2024年)の実施によって、複数のデジタル教科書やデジタル教材が利用される機会が増えている。

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

【「GIGAスクール構想」】

大臣メッセージには、次のような記載がある。

「忘れてはならないことは、**ICT環境の整備は手段であり**
目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに
受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手
として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形
成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していく
ことが必要です。」（以下略、赤字・下線は発表者が加工）

子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて
～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～
「文部科学大臣メッセージ」

12 月 13 日に閣議決定された令和元年度補正予算案において、児童生徒向けの 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれました。

Society 5.0 時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。

1 人 1 台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の 150 年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端の ICT 教育を取り入れ、これまでの実践と ICT とのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。

また、1 人 1 台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとした ICT の導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつなげていきます。

忘れてはならないことは、ICT 環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していく必要があります。その際、子供たちが ICT を適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

このため、文部科学省としては、1 人 1 台端末環境の整備に加えて、来年度から始まる新学習指導要領を着実に実施していくとともに、現在行われている中央教育審議会における議論も踏まえ、教育課程や教員免許、教職員配置の一体的な制度の見直しや、研修等を通じた教員の ICT 活用指導力の向上、情報モラル教育をはじめとする情報教育の充実など、ハード・ソフトの両面からの教育改革に取り組みます。

今般の補正予算案は、すでに児童生徒 3 人に 1 台という地方財政措置で講じた ICT 環境整備に取り組んできた自治体、またこれから着実に整備に取り組もうとする自治体を対象に、1 人 1 台端末とクラウド活用、それらに必要な高速通信ネットワーク環境の実現を目指すものです。そして、この実現には、各自治体の首長の皆様のリーダーシップが不可欠です。

この機を絶対に逃すことなく、学校・教育委員会のみならず、各自治体の首長、調達・財政・情報担当部局など関係者が一丸となって、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に取り組んで頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

令和元年（2019 年）12 月 19 日
文部科学大臣 萩生田光一

文部科学大臣メッセージ（2019年12月19日）

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

【「GIGAスクール構想」の目的】

G I G Aスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

- ・ 誰一人取り残すことのない学びの実現
- ・ 個別最適化された、資質・能力を確実に育成できる教育の実現
- ・ 教師や児童生徒の力を最大限に引き出す

GIGA スクール 構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ



「GIGAスクール構想の実現へ」リーフレット

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

【「学習者用デジタル教科書普及促進事業」の目的】（令和3年度）

「新学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難低減のため、平成31年4月から、一定の基準の下、必要に応じ、学習者用デジタル教科書を紙の教科書に代えて使用することができるようになりました。また、GIGAスクール構想による一人一台端末環境が早期に実現することを踏まえ、文部科学省では令和2年7月より「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」において、現行の教科書制度の見直しも含むデジタル教科書の在り方について、議論を進めています。

このような状況を踏まえ、令和3年度は、児童生徒の学びの充実や障害等による学習上の困難の低減に資するよう、小中学校等に学習者用デジタル教科書を広く提供し、普及促進に向けた実証事業を実施しました。」（以下略、文科省ウェブサイトより）

- ・ 児童生徒の学びの充実に資する ⇔ 個別最適化された、資質・能力を
確実に育成できる教育の実現
- ・ 障害等による学習上の困難の低減に資する ⇔ 誰一人取り残すことのない学びの
実現

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

【学習eポータルとは】

1. 学習の窓口機能

⇒ 個別最適な学び・協働的な学びへとつながる

2. 連携のハブ機能

3. MEXCBTのアクセス機能

学習eポータルとはなんですか。

日本の初等中等教育（学校教育）に適した共通で必要な学習管理機能を備えたソフトウェアシステムです。

1. 学習の窓口機能

多様な学習リソース（デジタル教科書・教材、各種ツールなど）の互換性のあるデータを学習eポータルで一覧的に可視化して活用することができる機能（個別最適な学び・協働的な学びへとつながる）

2. 連携のハブ機能

シングルサインオン等のアクセスの容易化など、学習リソースの利活用の連携のハブとして機能（活用者が便利になるとともに、デジタル教材等事業者が個々のソフトごとに連携する手間が省けて不要なコストがかからなくなる。）

3. 文科省システム（MEXCBT）のアクセス機能

文科省が運用する公的CBTプラットフォーム（MEXCBT）へアクセスする機能

[文部科学省CBTシステム運用支援サイト](#) > [よくある質問](#) > [本事業全般について](#)

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

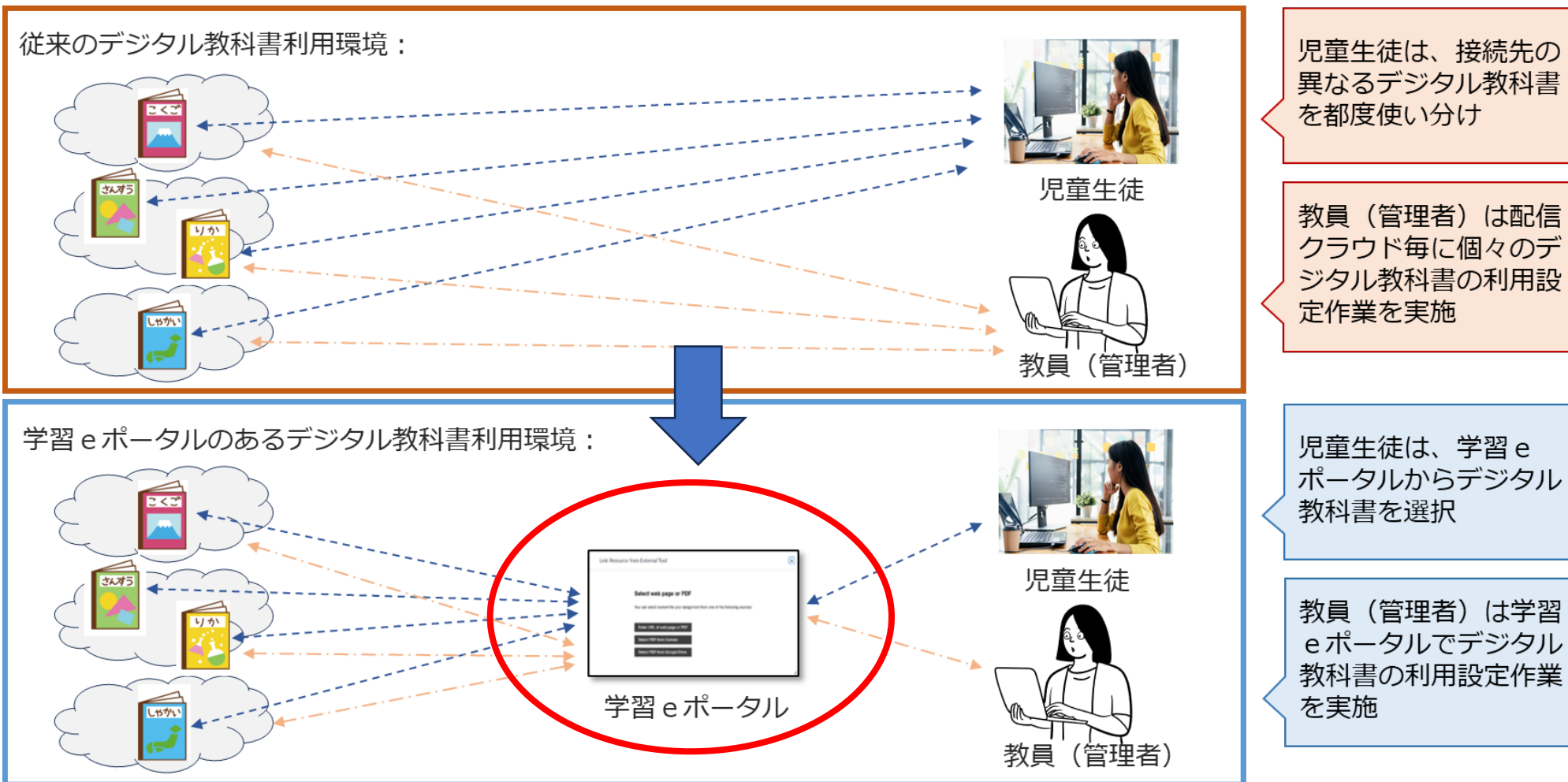
【学習eポータルとデジタル教科書の接続が実現した場合の可能性】

デジタル教科書は、Google、Microsoft、Apple の基本OSとのSSO機能を実装しており、すでに自動ログインを実現しているが、学習eポータルとの接続が実現すれば、教育現場が感じる管理業務の負担軽減策の一つとして、学習eポータルの「2. 連携のハブ機能」を活用して、**管理業務を一元化することが考えられる。**

また、学習eポータルの「1. 学習の窓口機能」を活用することで、様々なデジタル教科書やデジタル教材に**一つの本棚からアクセス**できる利用者（児童生徒／教員＝管理者）側のメリットも生まれると考えられる。

1. デジタル教科書から見た学習eポータルの在り方

学習eポータルの可能性（イメージ図）



2. 学習eポータルとつながることのメリット、課題や懸念

メリット

- 学習eポータルとの連携が実現した場合、様々なデジタル教科書やデジタル教材に関する管理者の作業のうち、学習者情報の登録や年次更新の作業(児童生徒の入学・進級・卒業など)をワンストップで可能にする。【管理者の省力化】
⇒ 教師の力を最大限に引き出す
- 学習eポータルとの連携が実現した場合、様々なデジタル教科書やデジタル教材の利用をワンストップで可能にする。学習eポータルに授業管理機能が備われば、時間割からデジタル教科書の学習ページを直接開くことも可能になる。【利便性向上】
⇒ 児童生徒の力を最大限に引き出し、個別最適な学び・協働的な学びにつなげる

2. 学習eポータルとつながることのメリット、課題や懸念

課題や懸念

- 学習eポータルを運営する企業は複数あり、これらの規格ごとに接続するのは困難。デジタル教科書との接続を考える場合は、最低限、**規格の標準化を細部まで進めて接続の負担を軽減**する必要がある。
 - ⇒ 標準仕様に関しては、細かな解釈の違いによって差異が現れることがあると聞く。
- 学習eポータルに対して、学校ごと・学年ごとに使用する「デジタル教科書に関する情報」の受け渡しの規格がまだ定まっていない。**受け渡す情報の項目や形式、情報を受け渡す方法や時期などの標準規格**を取り決める必要がある。
 - ⇒ 「1. 学習の窓口機能」の説明に「互換性のあるデータを(略)一覧的に可視化して活用する」とあるが、この実現に向けて議論の整理が必要である。
 - ⇒ 受け渡す情報の取扱いに関しては、関係者間で調整が必要であり、項目については目的に基づいた議論が求められる。

2. 学習eポータルとつながることのメリット、課題や懸念

課題や懸念

- 特に、主たる教材に位置づけられるデジタル教科書については、配信管理の**コスト負担を教科書発行者に求めない**共通理解が求められる。
 - ⇒「2. 連携のハブ機能」の説明に「デジタル教材等事業者が(略)連携する手間が省けて不要なコストがかからなくなる」とあるが、この共通理解を前提にして議論を進めていく必要がある。
 - ⇒ 協調領域の構築運用コストに関わる課題は、公費負担も含めた議論が必要である。
- 学習eポータルがデジタル教科書の配信を管理する場合は、**学年移行、複数年度利用、過年度利用、採択変更、変則供給などのライセンス管理への対応**が求められる。
 - ⇒ 学習eポータルが管理する学習者の情報と、デジタル教科書のライセンス情報をつなげる仕組みが必要になる。